

7/29 受領

《乾式貯蔵施設の設置について関係自治体から 事前協議の「了解」をいただきました》

女川原子力発電所2号機における使用済燃料の乾式貯蔵施設の設置について、2024年2月27日に宮城県および女川町、石巻市に対して行っていた安全協定に基づく事前協議の申し入れに対し、本年7月29日に了解をいただきました。

同施設の基本設計である「原子炉設置変更許可申請」は、本年5月28日に原子力規制委員会より許可をいただいております。詳細設計となる「設計及び工事計画認可申請」は、今後準備が整い次第、実施する予定です。

関係自治体の皆さまからいただいたご要請を真摯に受け止めるとともに、今後とも、地域の皆さまからご理解をいただけるよう、丁寧な情報発信に努めてまいります。

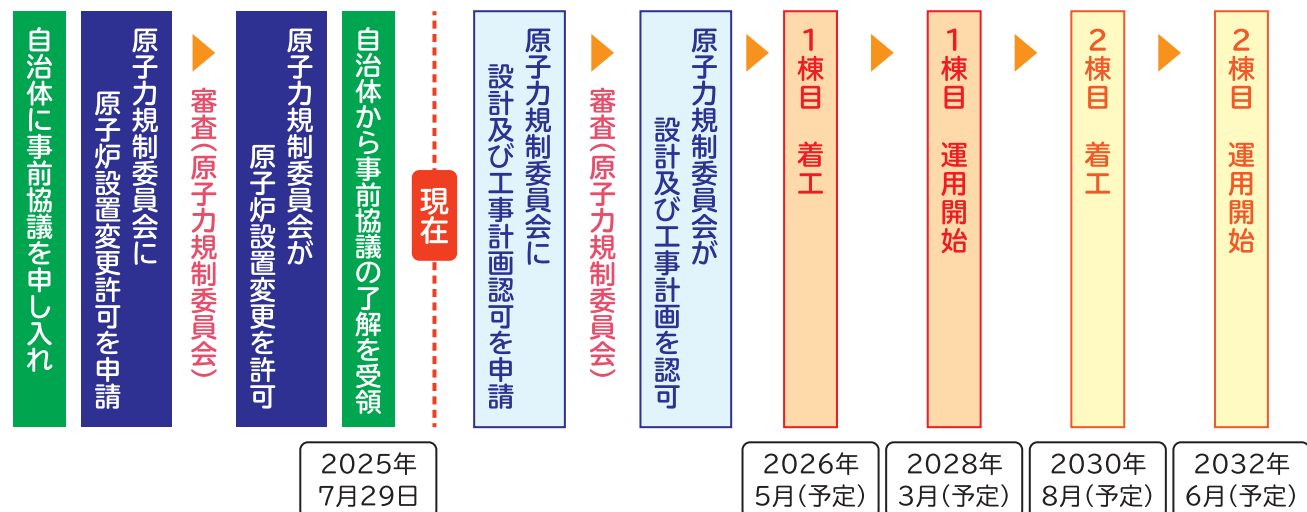


女川町からの回答(右・須田町長)



石巻市からの回答(左・齋藤市長)

「使用済燃料乾式貯蔵施設の設置」の流れ



7/9 認可 《2号機の長期施設管理計画の認可をいただきました》

本年7月28日に運転開始から30年を迎えた女川原子力発電所2号機は、GX脱炭素電源法に基づき「長期施設管理計画※」を策定し、原子力規制委員会の審査を受けた結果、本年7月9日に同計画の認可をいただきました。

引き続き、安全・安定運転を継続してまいります。

※長期施設管理計画とは、原子力発電所が運転開始から30年を超えて運転を継続しようとする場合、設備の経年劣化などを適切に管理するため、今後10年間の維持管理方針等を定めた計画です。この計画は、10年ごとに策定・申請し、原子力規制委員会の認可を受ける必要があります。

8/19・21 公表

《2号機の計画的な停止について》

女川原子力発電所2号機は、本年8月21日に原子炉格納容器内に設置している「水素濃度検出器※」の交換作業のため、原子炉を計画的に停止しました。

これは、格納容器内に設置している4台の水素濃度検出器のうち2台に不具合が確認されたことを踏まえ、**今後の安定運転に万全を期するため、原子炉を計画的に停止し、健全な残り2台を含む全4台の水素濃度検出器を交換することとした**ものです。

交換作業完了後、準備が整い次第、原子炉を再起動する予定であり、停止から再起動までは10日間程度を見込んでいます。

引き続き、安全確保を最優先とした原子力発電所の運転に努めてまいります。

※水素濃度検出器とは、重大事故等発生時において、原子炉内の水位が低下し、炉心が損傷した場合に放出される水素の濃度を監視する計器です。



Q. なぜ、今回の定期事業者検査に合わせて交換しないのですか？

A. 不具合が確認された水素濃度検出器は、今回の定期事業者検査において点検・交換を予定していた一方で、今後の安定運転に万全を期すために、前倒しで点検・交換することも併せて検討してきました。このたび、水素濃度検出器の交換の準備が整ったことから、予防保全の観点で交換することとしたものです。



詳細はこちらの
二次元コードから
ご覧いただけます

当社ホームページの
プレスリリースに
つながります



《地域のお祭りに発電所員や東北電力グループの有志が参加し、地域の皆さまと交流を深めました》

女川原子力発電所では、所員一人ひとりが地域の皆さまとの交流を深めるとともに、地域のお役に立ちたいとの思いから、地元のお祭りに参加しています。発電所員や東北電力グループの有志が参加した活動を紹介します。

おながわみなと祭り(7月27日)

発電所員8名が運営スタッフとして参加し、エコステーションの運営や、来場者の方々に熱中症対策用の氷が入った袋の配布などを行いました。



エコステーションの運営



熱中症対策用の氷を配布

石巻川開き祭り(8月1日～3日)

石巻・女川地域に事務所を置く東北電力グループの有志80名以上が「大漁踊り」や「大縄引き大会」、「孫兵衛船競漕」に参加し、お祭りを盛り上げました。



大漁踊り



大縄引き大会

牡鹿鯨まつり(8月9日)

発電所員6名が運営スタッフとして参加し、会場設営や撤去、鯨の炭火焼き無料配布のお手伝いなどを行いました。



会場設営の様子



鯨の炭火焼きの無料配布

《就業体験を実施しました》

東北電力グループでは、当社の仕事に興味・関心を持っていただいた学生の皆さんを対象に、就業体験を実施しており、本年8月5日から7日にかけて、計100名を超える学生が女川原子力発電所に来所されました。

発電所の見学では、構内にある訓練センターや、3号機内の設備を実際にご覧いただきました。また、若手所員との座談会では、実際の業務内容や東北電力の社風・雰囲気を肌で感じていただきました。参加した学生からは「徹底した安全対策を現場で拝見し、その重要性への理解が深まるとともに、この場所で働きたいという思いが強まった」といった感想が寄せられました。



女川原子力発電所 諸井所長の挨拶



3号機の原子炉建屋などを見学



訓練センターで実際の訓練を体感

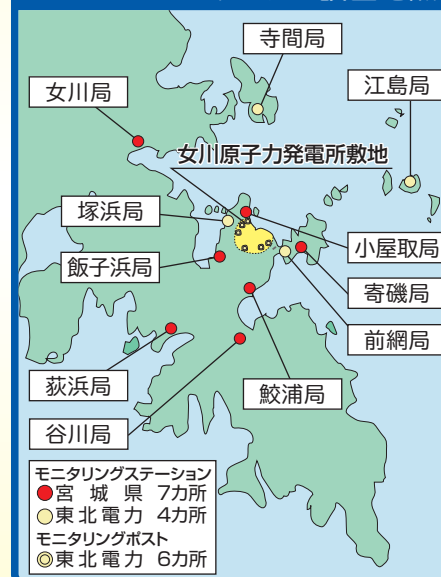


座談会で学生と若手所員が対話

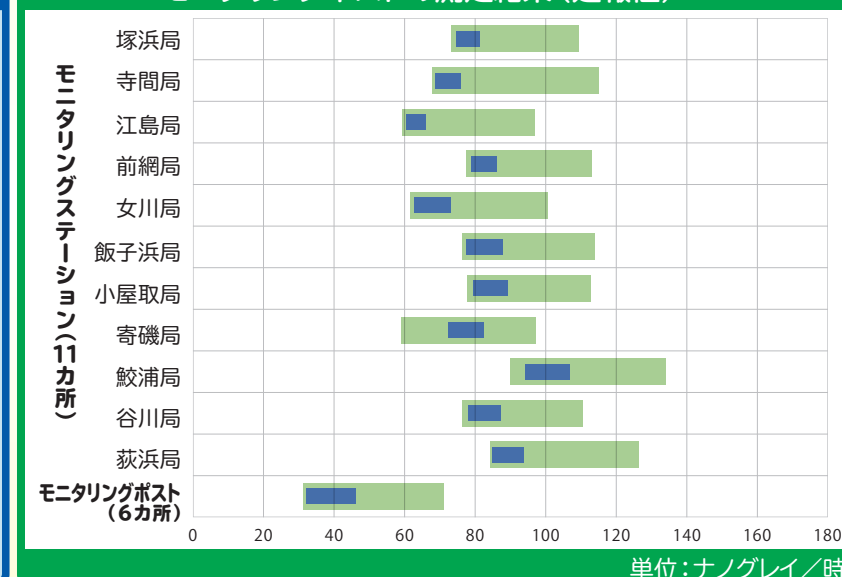
《発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングステーション※1やモニタリングポストで測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。2025年7月の測定結果は以下のとおりで、発電所周辺の放射線量は安定しており、発電所の運転による有意な変化はなく、環境への影響はありません。

モニタリングステーションとモニタリングポストの設置地点



2025年7月のモニタリングステーションとモニタリングポストの測定結果(速報値)※2



※1 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
※2 モニタリングポストの測定値は、検出器の種類が異なるため、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないことから、モニタリングステーションの測定値より20~40ナノグレイ/時程度低い測定値となっています。

グラフの見方

